

2020 年度業務実績報告書

提出日 2021 年 1 月 24 日

1. 職名・氏名 教授 中西 泰之

2. 学位 学位 博士、専門分野 経済学、授与機関 京都大学、授与年月 1997.07

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎ゼミ（2単位 毎年開講） 2年生（毎年度）
② 内容・ねらい 現代日本の経済社会を対象として、年度ごとに異なったテーマを選択している。 近年扱ってきたテーマは、20世紀末以降の現代日本経済で、個別の問題では、非正規雇用の増大・高失業率・日本型雇用と欧米型雇用・少子高齢化・デフレ・アベノミクス・消費税などです。2020年度は、MMT（現代貨幣理論）を取り上げた。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1. 学生の興味を引くように、現代日本の経済社会を対象とし、その範囲内で、毎年異なるテーマを選択している。 2. 今回のテーマは現代貨幣理論ではあるが、これは過去四半世紀の日本のゼロ成長の本質に関連するものなので、理論に深入りするというよりも、現在の日本経済・経済政策・日本の進路を覇権国の興亡や地政学とも絡めて検討した。この意味で、学生たちの未来にとって切実な問題であり、また、多様な視点を意識させるようにしている。 3. 対象とする文献について、学生には講義前のコメント文の提出と、講義後のコメントの提出を求め、必要な場合にフィードバックを行った。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 外書講読Ⅰ（2単位 毎年開講） 2年生（毎年度）
② 内容・ねらい 今年は MMT（現代貨幣理論）の文献を扱った。MMT・過去四半世紀の日本デフレ・主流派経済学との違いを開示しないと、英文読解も表面的なものに終わるので、前者の解説に時間がとられたが、やむを得ないと考えた。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1. 毎回、全員に訳出させる（毎回、全員が無作為に指名されるのでの全文の予習が必須）。 2. 毎回、小テストを行っている。 3. 毎回の冒頭で、前回の訳出部分を教員が改めて検討・翻訳したものを全員に手渡して、前回の復習をする。講義がすべて終了した後は、原文と訳文の両者が学生の手元に残ることになる。 4. 以前は、毎回学生に渡す訳文は、講義中に訳出する範囲よりも多い範囲の訳文としていた。これは、特に英語なり対象分野に興味を持っている学生には、講義内で扱う以上の範囲を自分で読み、チェックできるようにするためであるが、今回は不十分であった。 5. 以前、配布した訳文について、学生の意見を翌週に提出させ、教員側で点検してから、最終的な訳文とし、学生に手渡したが、今回は zoom 講義であり、できなかった。 6. 原文の読み上げは、ネイティブの音声を聞かせている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経済人口学（2単位） 2年生（毎年度）

② 内容・ねらい 人口の歴史・理論・現状と将来の課題について学ぶ。 現代の人口問題が近代化の必然的帰結であることを理解し、より広い視野から現代社会の来歴と未来、その課題を捉えられるようにする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1. 適切な教科書がないため、毎回その回の講義ノートとデータ資料を作成し配布している。 2. 形式人口学に属する議論は数学的統計学的知識を多く必要とするため、実体人口学的内容を主内容とし、社会人口学や歴史人口学なども含めた幅広い議論を紹介している。ただし時間的制約により、死亡については扱っていない。 3. 具体的な講義内容としては、現代の人口問題を把握するために必須の人口転換の理論・その帰結、および、現代の少子化・将来見通し・少子化対策に力点を置いている。 4. 今年は zoom 講義であったので、従来の毎回の小テストは実施せず、毎回「まとめ問題」をグーグルクラスルームにアップした、作問にずっと多くの時間が必要となり、教員側には負担であるが、学生には講義を全体的に復習させることになるので、来年も継続する予定だ。 5. 今回は、外部講師（卒業生）に話を聞く機会をとれなかった。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経済学史（2単位） 2年生（毎年度）
② 内容・ねらい 経済学の成立期から戦後期にいたる理論経済学の歴史的な展開を講義する。経済思想史・社会思想史にも触れるが、主に理論史の領域に焦点を絞って、日本経済の現状とも絡めて、より広い視野から経済学的思考をとらえ、現代の経済学の特質・限界・欠陥をより深く理解できるように努めている。最終回には、戦後の経済思想を現在のブレイグジットとトランポノミクス、MMT（現代貨幣理論）の台頭まで講義した（zoom による補講）。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1. 適切な教科書がないため、毎回その回の講義ノートと各種資料を配布している。 2. 他の講義で学んでいるはずのことや、本講義の復習にかかわることなどでは、学生にそのつど質問して理解度を確認しながら進めている（受講者数・年度・進行状況による）。 3. 経済学史上の古典の一部を配布・輪読して、実際の古典に触れる機会を提供している。 4. 毎回の小テストを行ってきたが、今年は毎回「まとめ問題」をグーグルクラスルームにアップすることで、工事の全体を復習させた。 5. 単なる過去の歴史としてではなく、現代のデフレ・ゼロ成長あるいは MMT と絡めて議論をして、現代の課題としての意味も理解可能のように詩論を進めた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 特別企画講座 A（1単位 今年是不開講） 2年生（毎年度）新宮・渡邊両先生と共同世話人
② 内容・ねらい 連合福井による寄付講座
③ 講義・実験・実習運営上の工夫 基本的には従来の年度と同様。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習 I（4単位 毎年開講） 3年生（毎年度）

② 内容・ねらい
1. 前期は、現代貨幣理論（MMT）と日本デフレを中心に検討した。
2. 後期は、人口学の基本および、戦後日本の人口問題について検討した。
③ 講義・実験・実習運営上の工夫
1. 半期ごとにレポートを提出させ、卒論のテーマ探しの一助とする。
2. 毎回、対象とする文献へのコメントと、講義後のコメントの両方を提出させ、適宜フィードバックを行った。
3. 書物を選んで輪読するのではなく、各テーマに沿った複数の文献を適宜組み合わせて学生に提供し、複数の視点から理解できるようにしている（年度による）。
4. 1年を通じて、過去四半世紀の日本経済・人口政策・アベノミクスを背後にある題材として扱った。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅱ （4単位 毎年開講） 4年生（毎年度）
② 内容・ねらい
1. 前期は、演習Ⅰに引き続き、現代貨幣理論（MMT）と日本デフレを中心に検討した。
2. 後期は、日本の少子化政策の失敗、およびパラサイト・シングル論について検討した。
③ 講義・実験・実習運営上の工夫
1. 半期ごとのレポート提出を義務化し、卒論のテーマ探しの一助とする。
2. 毎回、対象とする文献への学生のコメントと私のコメントを軸に進行させている。
3. 毎回、講義後のコメントを提出させ、次回講義で、適宜フィードバックを行った。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 人口特論 （2単位 隔年開講で、今年是不開講） 大学院修士課程
② 内容・ねらい
学部段階では全く人口学を学んでこなかった学生に、人口学のエッセンスと、先進諸国に共通する問題である少子高齢社会について、講義と輪読を組み合わせで講じる。
③ 講義・実験・実習運営上の工夫
1. 講義では、毎回、その回の講義ノートと各種資料を配布した。
2. 講義では、次回に扱う文献についての課題を与え、コメントを提出させた(年度による)。
3. 受講生が日本人のみである場合は特に、毎回与える課題も多めにするとともに、濃密な講義を行った。
(2)その他の教育活動

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文
② 著書
③ 学会報告等
④ その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動

学会での役職など
学会・分科会の開催運営
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加
② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績

5. 地域・社会貢献活動

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③ 公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加
④ 兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動
⑤ 大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥ その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
公開講座
その他
(3)その他 (個人の資格で参加している社会活動等)

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
2020 年度 教職部会委員
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など